



読書の秋も深まる今日のごろ、秋の夜長に小説やエッセイを読む人も多いだろう。その合間に、詩集を手にとってみるのはいかがだろうか。

今回紹介するのは、日本を代表する詩人のひとりである谷川俊太郎氏の、青年時代の代表作を厳選した詩集である。「谷川俊太郎」という名前を耳にしたことのある人は多いだろう。小中学校の国語の教科書に彼の詩はいくつか掲載されているし、「生きる」という詩はテレビドラマの中でも使用されたことがある。それだけに限らず、彼の詩は様々な場面で使用されており、世代を超えて多くの人々に愛され続けている。

彼が今までに書いた詩の数は計り知れないが、その中でも特にこの詩集を紹介する理由はなんと言っても、らいふすてーじ読者に当時の彼と年齢層の近い人が多いからである。

“純粋で瑞々しい感性に満ちた作品”という言葉が、彼の作品にはぴったりの表現だろう。普段の生活の中で何気なく思ったこと、気付いたこと、感じたこと



## 作者紹介 谷川俊太郎 (たにかわしゅんたろう)

1931年東京生まれ。1952年に詩集「二十億光年の孤独」でデビューする。

多数の合唱曲や校歌の作詞のほか、翻訳、絵本なども手がけ、多岐に渡って活躍している。

主な代表作は「十八歳」「ことばあそびうた」「うつむく青年」「魂のいちばんおいしいところ」「シャガールと木の葉」など。

が、驚くほどの確に、素直に表現されている。今これを読んでいるあなたもこの詩集の中に、自分の気持ちにぴったり重なる作品を見付けられるかもしれない。

たとえば、ひとりで夕日を眺めるとき、友達と喧嘩したとき、しんとと雨が降るとき、ふっと感じる微かな寂しさ。愛する人と一緒にいるとき、久しぶりに良い天気になったとき、おいしいものを食べたとき、心の中に湧き上がる喜び。言葉では表現しにくい“なんとなく”の気持ち、ありのまま、素直に感じたままに表現されている。心の中に溢れてくる感情を、彼はどの恥じらいもなく外に吐き出して、語っているのだ。だからこそ彼の詩は不思議とリアルで、読むと心を動かされてしまう。

今回紹介している詩選集は全3巻あり、巻が進むごとに書かれた年代も進んでいく。それに従って詩の内容にも深みが増していくので、興味のある人はぜひこちらも手に取っていただきたい。

日常生活に疲れたときや小説や論文を読み飽きたとき、うまく言えない気持ちが心に溜まっててもやもやするときには、ぜひこの詩集を読んでみてほしい。素直な気持ちになれて、気分が楽になれるにちがいない。(クマノミ)

# 谷川俊太郎 詩選集 1



集英社文庫  
2005年発行  
(定価 495円+税)

はみだし  
すてーじ

もうカフェインなしでは生きていけません。  
⇒同感です。カフェイン万歳!! 眠気よさらば!!

(工・3 タミフル)  
(これなくして単位は取れませんよ;編)